

衆議院議員

木原せいじ

国会活動報告書

せいじ便り 新年号(20号)



揺るぎなき挑戦!!
30代の若さで改革

四年目の年を迎えました。
今年の大目標は5つ

目標1：世代交代で明るい政治を！

中堅・若手グループで政策提言続行

~~不信・対立駆け引き~~から「調和と政策競争」へ

暗い駆け引きばかりが横行しました。申し訳ないことです。例えば、第二次補正予算を巡る攻防。「早期提出を」と、渡辺喜美元行革大臣・塩崎元官房長官はじめ同志の若手・中堅議員で「速やかな政策実現を求める会」を立ち上げ、行動をしました。

しかし、総理と野党第一党党首が会談して、一方は「早く出せ」、他方は「審議する気がないじゃないか」と言い合い。特に、「早く出せ」と迫った野党党首は、以前も「審議する」といって、約束を破った実績がある人です。それも一回どころか数回。不信が不信を呼ぶ、古く暗い政治は駄目です。今年こそ、「調和と政策競争」の明るい政治に向け、「世代交代」を通じた政治改革が必要です。



上／無駄撲滅PT公開討論会で事務局次長として進行を務める。
下／中小・零細企業の資金繰りプログラムを取りまとめ報告する。

目標2：政治の風景・基本ルールを変える

無駄遣い撲滅PT事務局長補佐として、
既得権益との戦い続行

予算分捕り合戦から予算の取捨選択へ

~~議員世襲に一定のルールを~~、議員定数削減を

政官の接触制限を通じて官から政治を取り戻す

世代交代で変えるべきは、政治の風景・古いルールです。

第一に政策。「予算をとること」ばかりの政策展開から、予算の増減を取捨選択する政策競争へ。更に「予算の配分」から適切な「負担の配分」を競う政策へ。

これまで政治が「この予算は減らします」と主張することは、めったにありませんでした。昨年、道路財源の暫定税率廃止を主張した政党が、他方で「道路はちゃんと作ります」と言っていたくらいです。しかし、大切なことは、政策を精査し、止める、縮小する、増やす、取捨選択することであり、社会保障については必要な財源を明示することです。

事務局長補佐を務めた「税金無駄遣い撲滅プロジェクトチーム」の取組みは、最初の一步。予算の事前規制から「事後チェック」への移行が重要で、複数年度予算を導入し、財務省主計局を予算配分局と予算監査局に分割することが必要です。

第二に人材。政治には多種多様な人材の流入が必要です。しかし、現実には世襲議員が多すぎます。世襲



木原せいじ公式
モバイルサイト
http://kiharseiji.com/k/
携帯電話から木原せいじ
モバイルにつながります。

議員自体が悪いわけではありませんが、全選挙区へ**公募制の導入**、**両親と同一の選挙区からの立候補制限**などにより、**競争条件は同一**にすることが必要です。同時に、議員定数削減など、国会自らがけじめを見せなければなりません。

第三に政策決定の仕組み。多くの政党で、役所から政策や法案の説明を受け、議論する仕組みがあります。**役所の土俵で相撲を取ら**されています。打破には、**政治家と官僚の接触禁止**が重要ですが、「**情報が得られなくなる**」との理由で野党から拒否されてしまいました。であれば、政治家が役所の力を借りずに政策提言を積み上げねばなりません。昨年末、平将明議員とともに、「**中小・零細企業資金繰り救済プログラム**」をまとめ、異例のことですが、党の中小企業調査会で正式に取り上げてもらうことができました。政治主導の政策決定に今後も一つずつ取り組みます。



ハンセン病問題懇談会で国のハンセン病問題への支援を訴える。

目標3: 「ダムから噴水」で景気回復、ふたつを豊かに

政策は下から目線へ
 上からの経済波及から「噴水式」に下からの経済波及へ
 日本経済の宝・中小零細企業、雇用維持こそ社会の使命
 そして、何よりも社会保障の充実

日本経済は、「上から」の経済波及に頼ってきました。輸出型大企業が元気になる、次に一次下

請け中堅企業、更に二次・三次の中小・零細企業へ、そして、給料の増加で家庭へと。ダムの水が下へ溢れ出ていく「**ダム理論**」。
 今後は、**下から「噴水式」**に盛り上がる方向が大切で、政策も**下から目線**に変えていく。

〈中小・零細企業の税制・金融の充実〉

税制面では、今年度、①欠損金の繰越還付、②軽減税率の引き下げ、③人材・研究開発投資減税、を実施します。更に、金融面でも、政府系金融機関による緊急貸付、信用保証協会の緊急保証の充実が図られています。もう一步踏み込んで、貸出という金融機関の基本的使命を果たしてもらうよう、**預貸比率目標の設定**などの措置も取っていきます。

〈雇用の確保〉

非正規職員を正社員化した企業に対する助成、内定取消者を雇用する企業への助成、失業者に対する住宅提供など既に決定している事柄は、早急を実施していきます。また、失業手当の需給要件緩和や支給の一次的な長期化なども迅速に取り組みます。更に、先日、舛添厚労大臣に提言したとおり、例えば、職を失った若者に対し、奨学金を支給し、英語とITに特化した職業訓練を全寮制で提供するなど、**人材投資型の雇用対策**も検討すべきです。

〈社会保障の充実・強化〉

今こそ、**将来不安を除去**して内需拡大を図ることが重要です。年金では、国民の皆様のご協力とマンパワーを総動員した年金記録の集中点検、未納期間へのきめ細やかな対応。医療・介護では、医師・介護人材



将来に対する安心の確立へ向けて、年金問題にも鋭いメスを入れる。

の確保、介護施設の充実。社会保障の充実こそ重要です。
 そのためには、安定的な社財源が不可欠であり、「**薄く広く皆で支え合う**」の考えのもと、景気回復後3〜5年を目途に抜本的税制改正に取り組みでいきます。

目標4: 今年こそ財源論争に決着をつける

無駄撲滅PTの本当の成果

埋蔵金は既に活用・しかも二回限りの財源
 無駄遣い撲滅で歳出の二割のカットは可能
 公務員給与・国会議員歳費削減

景気回復 ↓ 税制改正

財政は大変な赤字体質です。このままでは、子や孫の世代は、**借金返済のためだけに税金を払う**ことになってしまいます。いかに克服するか、様々な選択肢が議論されてきました。

第一に、**埋蔵金**といわれるもの。特に、特別会計の剰余金・準備金で、2006年末で約50兆円。しかし、外為特会の準備金20兆円は、円高で吹っ飛んでしまいました。財投特会の準備金20兆円弱は、21年度予算も含め、既にこの3年間で、国債の償還や景気対策に使用しています。労働保険特会の積立金は、現下の雇用情勢では取崩しが困難です。埋蔵金は枯渇しており、いずれにしても1回限りしか使えませんから、**恒久的財源とはなりません**。

第二に、**無駄遣い撲滅**。無駄遣い撲滅PTでの作業を通じて、タクシー代とかマッサージ機などのレクリエーション経費などは、既に廃止・縮減を行っています。今後の大きな無駄は、政策の事業仕分けの中から出てきます。無駄撲滅PTで文

地元との交流



地域の餅つきに参加。きねを持つ手にも力がこもる。



ひまわりフェスティバルにて。夏の日差しに映える一面のひまわり畑。



夏祭りに飛び込み参加。地元の皆さんとみこしを担ぐ。



支援者の皆さんと写真に納まる。みんないい笑顔。



市民まつりに参加。多くのブースと沢山の人手で熱気にあふれる。



同僚議員と共に田植えに挑戦。泥んこになりながら奮闘。



農産物の品評会で立派に出来たキヤベツを手にとりて笑顔。



1000人も支援者の方が集まって叱咤激励の決起集会。大きな勇気をいただきました。



高齢者の苦労を疑似体験。人にやさしい街づくりの大切さを実感する。



未来を担う子どもたちの元気な姿に思わず笑みがこぼれる。



気軽に地元の輪の中に入って、現場の声を聞いてまわる。



地元は、都内でも有数の安全でおいしい農産物の生産地。



地元神社の催し物に参加。大人から子どもへ地域行事が引き継がれてゆく。



座談会で生の本音をぶつけ合う。熱を帯びた会に身振りも大きくなる。

なお、民主党は、農家の所得保障や子供手当で倍増など20兆円を超える施策の財源として、この212兆円の1割カットを挙げますが、既述のとおり、実際の対象は40兆円。1割カットでなく、5割カットになり、防衛費、教育費なども現在の水準から半分にせざるを得なくなります。



若手同僚議員と共に構想日本主催のフォーラムに参加。現在、そして将来にわたる日本のあるべき姿について激論。

部科学省や環境省の予算を精査した経験からすると、**1割程度の削減は可能**です。ただし、一般会計と特別会計を合わせた歳出212兆円全体の1割が削れるわけではありません。212兆円のうち、67兆円は社会保障支出、88兆円は借金返済、17兆円は地方への支出（多くは医療や教育のための支出）で、カットが困難だからです。この三つだけで、**全体の8割を超える172兆円**であり、1割カットの対象となるのは40兆円。1割で4兆円。

第三に、**公務員人件費・国会議員歳費のカット**。仮に1割カットするとすれば、5000億円超。

しかし、これだけでは、30兆円を超える毎年の借金を賄うことは困難です。だからこそ、埋蔵金も活用して景気対策に万全を期した上で、景気回復後には、**抜本的税制改正**をお願いしなければなりません。政治が逃げることは許されせん。ただし、あくまでも、**行政・公務員・国会改革と徹底した無駄遣いの撲滅が大前提**です。「速やかな政策実現を求める会」の同志とともに、戦っていきます。

目標5：将来の日本のあるべき姿を示す

日本の将来像には5つの柱が大切です。

自立平和国家「日本」

まずは**自給率4割の「食料」**。減反政策から需要開拓型・水田フル活用型に転換し、米粉用米や飼料用米などの作付けを充実すること、食生活の抜本の見直しなどが不可欠です。また、国防においても、憲法9条の「専守防衛」精神を堅持しつつ、自衛隊を憲法上位置づけることで、**自らの国は自ら守る**ことを明確にしなければなりません。

環境先進国家「日本」

源が少なく、環境問題・省エネに取り組んできた実績こそ、日本の強みです。ところが、残念ながら、例えば、太陽光発電ではドイツに世界一の座を奪われてしまいました。予算・税制のフル稼働で太陽光発電などを充実し、**新エネルギー自給率世界一**を目指すことが重要です。同時に、交通システムもリニアモーターカーや電気自動車など環境対応型に転換していかねばなりません。

共助国家「日本」

我が国社会保障制度は、一生懸命頑張っていた高年齢者の皆様を若手が支える仕組みであり、その財源は、経済発展の果実で担われてきました。しかし、**人口減少社会**を迎え高度経済成長は望めません。従来の仕組みを維持するだけでは、破綻は目前です。

今こそ、高年齢者も含め**皆なで支えあう社会**の構築が不可欠です。例えば、高年齢者の資産を早めに次世代に引き継げるよう**贈与税を引き下げる**、資産・所得のある高年齢者の方には応分の負担をお願いする、などが必要です。同時に、世代を超えて等しく負担していただける**消費税を中心とした税制改正**も不可欠です。

アジア国家「日本」

明治以来、脱亜入欧が基本路線だった日本。しかし、今後の**成長センターはアジア**です。アジア共同体を語るにはまだまだ早い段階ですが、少なくとも、経済危機時の相互援助の枠組みの強化、金融市場の統合、貿易システムの共通化などを通じて、**アジアとともに成長する日本**が大切です。

教育国家「日本」

資源の少ない我が国にとって、最大の資源は人材。**教育こそ命**です。教育には「**覚えこみ**」つまり「暗記」も重要です。ゆとり教育を脱し、徹底した**反復練習**を行うこと。また、教育には時として**規律**も必要です。そのために、子供を「**教え、育てる**」場である学校を地域社会の核と位置づけ、教育現場の復権を目指さなければなりません。

木原せいじ事務所

■国会事務所

〒100-8982 東京都千代田区永田町2-1-2
衆議員第2議員会館606号室
TEL：03-3508-7606
FAX：03-3508-3986

■地元事務所

〒189-0013 東京都東村山市栄町2-22-13
松岡ビル2階
TEL：042-392-4105
FAX：042-392-4106



木原せいじ
プロフィール

- ・私立武蔵中学・高校、東京大学法学部卒業
大学時代はテニスで全国選抜3位
- ・平成5年大蔵省(現財務省)入省、主計局、大臣官房、国際局課長補佐、税務署長歴任
- ・その間、英国大蔵省出向(初代)
- ・平成17年9月 衆議院選挙当選
- ・現在、厚生労働委員会、内閣委員会、拉致特別委員会、各委員。党では、国際局次長、青年局次長、女性局次長、学生部参与。
- ・趣味はテニス・ピアノ・散歩。座右の銘「至誠通天」。著書「英国大蔵省から見た日本」(文春新書)